

# みその 聖園子供の家カメラワークショップ

助成:(公財)大同生命厚生事業団 協力:オリンパス株式会社

主催:NPO リトル・クリエイターズ



## はじめに

NPO リトル・クリエイターズは、2012年から神奈川県藤沢市にある聖園子供の家で、小学生低学年を対象に美術のワークショップを月1回開催している。子供たちが興味を持ち、少し難しく達成感があるような工作や絵画のワークショップなど毎回いろいろと工夫をしているが、子供たちからしばしば要求されるのがカメラを使ったワークショップだった。カメラを人数分集めることが困難で、過去には使い捨てカメラを使用して開催したこともあるが、今はデジタルの時代。子供たちに思いっきりデジタルカメラの魅力を味わわせ、デジタルカメラの使い方を知ってもらうにはどうすれば良いか考えあぐねていたところ、有難いことに公益財団法人大同生命厚生事業団からカメラワークショップのために10万円の助成金をいただいた。通常ワークショップ参加者は15人から20人のため、残念ながら全員分のカメラは購入できない。では足りない分をお貸ししましょうと、今度はオリンパス株式会社がデジタルカメラのレンタルを承諾下さった。そこで5台カメラを購入し、残りはお借りしたカメラで、ついにデジタルカメラのワークショップを実現した。

## 第1回ワークショップ

2019年11月17日

最初に、目の仕組み、カメラのレンズの仕組み、フィルムとデジタルのことを簡単に話した後、カメラの持ち方や太陽を背にして写真を撮ると人物が明るく写るなど基本的なテクニックを説明した。

テーマは、友だちを撮る、友だちに撮ってもらうとし、余裕があれば他にも好きなものを撮るように促した。撮影時間は野外で30分の予定が45分。そして最後に、撮った写真の中からプリントしたい写真を3点ずつ計6点選んだ。



集合写真を撮りますよ！  
カメラをどうしても放せない子どもたち



最高の笑顔でお友だちを撮る  
最高の笑顔でお友だちに撮ってもらう



## 子どもたちの様子

15人参加。児童養護施設の子どもたちには、携帯電話やPCを普通の家庭の子どもたちほど接する機会がないといっても、デジタル世代の子どもたち。一旦カメラを持つと体の一部のように自由に使いこなし、多くの子どもが説明を受けるまでなく撮影モードを変えたり、気に入らない写真を消去したりと使いこなしていた。初めて自由に撮影をさせてもらえる機会を得た子どもの中には、短い時間の間に500点、600点と撮影し、プリントする写真を選ぶことに苦戦した子どもたちもいた。

## 第2回ワークショップ

2019年12月15日

第1回ワークショップで子どもたちが選んだ写真をプリントし、加えてスタッフが撮影した集合写真などを渡してアルバム作りを行った。土台となるのは、色画用紙。これに穴を開けて、リボンで綴じる。写真はそのまま貼り付けたりコラージュをしたり、説明文をつけるなどして自由に世界に一つのアルバムを完成させた。



## 子どもたちの様子

自分で撮った写真がプリントされていることに、まず感激し、台紙の色や書き込む内容も、いつになく丁寧に選んでいる様子だった。1枚の台紙に2点の写真を貼る時は、意識的にか無意識にか2点の構図を比べて並びを決め、必要に応じてトリミングも。写真撮影の時もそうだったが、期待以上に構図の取り方に気をつけていることがうかがえた。そして、きらきら光るシールなどでも飾りつけ、アルバムの中の笑顔が弾けだした。



## 集合写真、子どもたちの写真

集合写真や子どもたちが撮影している風景の写真を、児童養護施設出身者で当NPOのベネフィッシャリーも撮影した。子どもたちのアルバムづくりには彼女の写真も使われている。彼女は聖園子供の家のワークショップに、時々ボランティア・スタッフとして参加し、子どもたちと交流を重ねている。小さい時から美術が好きで、環境が許せばおそらく芸術関係の仕事を得ていただろう。右の写真は、彼女が撮った1点。

